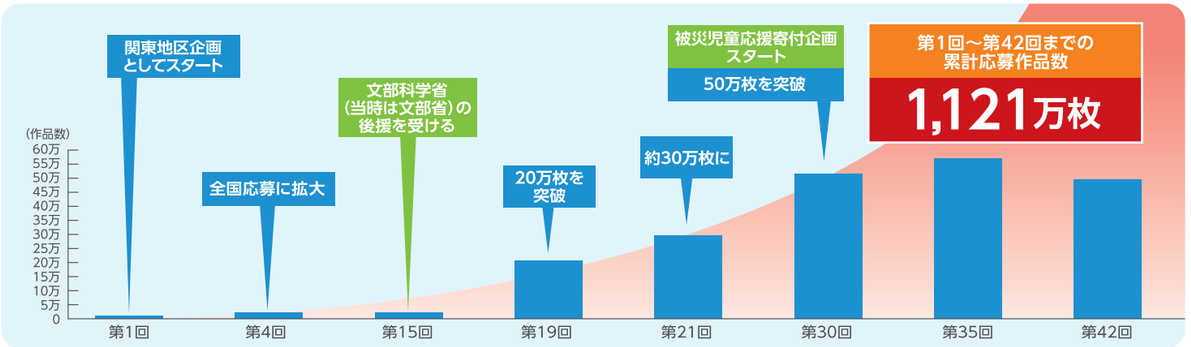
1982年から毎年開催 3歳～12歳の人口の20人に1人が 応募する日本一の児童画コンクール

「全国児童画コンクール」は1982年（昭和57年）、絵画を通じて児童の情操教育を応援することを目的に、CGCグループ加盟の食品スーパーマーケットで作品の応募を受け付けるところから始まりました。当初は関東地区に限っての展開でしたが、第4回から募集地域を全国に拡大。応募作品数は1999年の第18回に10万枚を超えて以降、第19回に20万枚、第21回に約30万枚と認知度の高まりに合わせて増え続け、第30回以降は毎年約50万枚の作品（日本の3歳～12歳の人口の約5%、20人に1人が応募）が集まる国内最大規模の児童画コンクールへと成長しました。

第42回から上位賞の小学生学年区分を細分化 「小学校中学年（3・4年生）の部」新設

第42回のコンクールからは、児童の成長過程に合わせて適切に審査を行って評価をする目的から、文部科学省の小学校図画工作の学習指導要領の学年区分に合わせ、上位賞の小学生の学年区分を細分化し、3・4年生を対象とする「小学校中学年の部」を新設。文部科学大臣賞以下、日本児童画振興会賞まで適用しました。



画題やテーマは設けず、全応募作品を審査

「全国児童画コンクール」では、開始当初から変わらずに続けてきたことがあります。

一つめは、作品を募集するのにあたり、「画題やテーマは設けない」こと。子どもたちが見たこと、感じたこと、考えたことを自由に絵で表現することが想像力の発達など、子どもの成長にとって大切である、と考えているからです。

二つめは、全応募作品を一枚一枚ていねいに審査することです。学校選考や地区選考などはせず、美術大学の教授や小学校の先生など児童画教育の専門家が、東京の事務局へ集められた全応募作品を審査します。

募集活動の拠点は、全国にある CGCグループ 食品スーパーマーケット店舗

「全国児童画コンクール」の応募受付期間は、夏休み期間にあたる7月1日～9月5日。

コンクール開始以来、続けてきたことの三つめであり、このコンクールの特長であるのが、北海道から沖縄まで全国のCGCグループ加盟スーパーマーケットが募集活動の拠点となることです。店頭での画用紙の配布をはじめ、近隣の保育所や幼稚園、小学校へ画用紙をお持ちして応募をお願いし、お店で作品を受け付けます。集まった作品はお店単位で東京の審査会場へ送付され、審査をして、お店へお返しします。

募集活動を通じてお店と地域の子どもたち、お客様、学校とコミュニケーションが深まり、お店によっては、応募作品を店内に展示したり、お店で表彰式を開催したりしてコミュニケーションを強化しています。

東日本大震災発生の第30回から寄付企画を実施 10年間、被災3県へ寄付

全国児童画コンクール 寄付企画

「全国児童画コンクール」では、作品応募1枚につき、CGCグループが寄付金を積み立てて寄付するという企画を継続して実施しています。東日本大震災が発生した第30回から始めて、第39回までの10年間に累計4,661万6,635円の寄付を、甚大な被害を受けた福島、宮城、岩手県の被災児童育英基金へお届けして被災児童を応援させていただきました。

	寄付先	累計寄付額	
福島県	ふくしまこども寄付金	1,580万5,901円	累計寄付額合計 4,661万6,635円
宮城県	みやぎこども育英基金	1,568万9,076円	
岩手県	いわての学び希望基金	1,512万1,658円	

第40回以降「子どもたちの未来を応援」する寄付企画に

第40回以降、「子どもたちの未来を応援」する寄付企画として、上位賞の受賞者が居住する市町村の子ども未来課などに分配寄付する企画を実施し、直接、寄付をお届けしています。

第42回は、文部科学大臣賞の受賞者4名が住む4市へ作品1枚あたり50円をCGCグループが拠出し、総額2,440万7,800円を分配して（1カ所610万1,950円）寄付させていただきました。

幼児の部 ひたちなか市
小学校低学年（1・2年生）の部 焼津市
小学校中学年（3・4年生）の部 秋田市
小学校高学年（5・6年生）の部 福岡市